

① はじめに

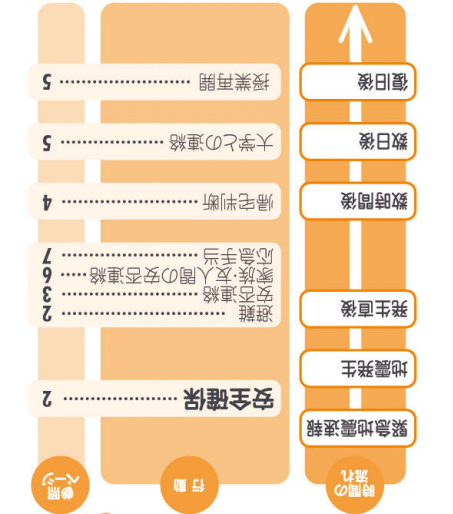
このマニュアルは **震度6弱以上の地震**を対象としています。

震度6弱とは気象庁震度階級関連解説表によれば、以下のとおりです。

人間	立っていることが困難になる。
屋内の状況	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。
屋外の状況	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
木造建物	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。
鉄筋コンクリート造建物	耐震性の低い建物では、壁や柱が破損するものがある。耐震性の高い建物でも壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。
ライフライン	家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生する。〔一部の地域でガス、水道の供給が停止し、停電することもある。〕

このマニュアルは、震度6弱以上の地震に際して、地震発生時に身を守り、発生後数時間の混乱を乗り越え、2~3日後に最低限の社会インフラが回復するまでの対応方法をまとめています。

取手キャンパス
〒302-0001 茨城県取手市小文間5000
取手事務室 050-5525-2543
横濱キャンパス
〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町4-44
馬車道校舎事務室 050-5525-2673
災害時優先電話(学生支援課) 03-3828-1155



東京芸術大学
Tokyo University of the Arts
大地震
対応マニュアル
2012年度作成
学生用

② 地震発生から避難まで

緊急地震速報
地震発生
揺れがおさまった

揺れがおさまらず次第、大学は直ちに事務局に震災対策本部を設置します

上野：校舎内で待機
取手：一次避難場所へ
横浜：馬車道校舎へ
千住：校舎内で待機

※大学は交通状況や周囲の情報を収集し、帰宅可能かどうか指示します

交通機関が動いていない

自分の身を守る
冷静に周りの状況を把握する

- 窓や棚から離れる
- 机の下にもぐる
- バッグ等で頭を覆う
- 薬品から離れる
- 屋外では建物から離れる

● 火災等は発生していないか

● 負傷者はいないか

● 建物内は安全かどうか

各キャンパスの震災対応マニュアルに従い行動する
避難時には次のことを確認

- エレベーターは絶対に使わない
- 慌てて外に出ない
- 落ち着いて移動する
- 落下物に注意する
- 煙・埃を吸い込まないように口をハンカチなどで覆う

① 学内に滞在する
② 地域の指定避難場所へ避難する

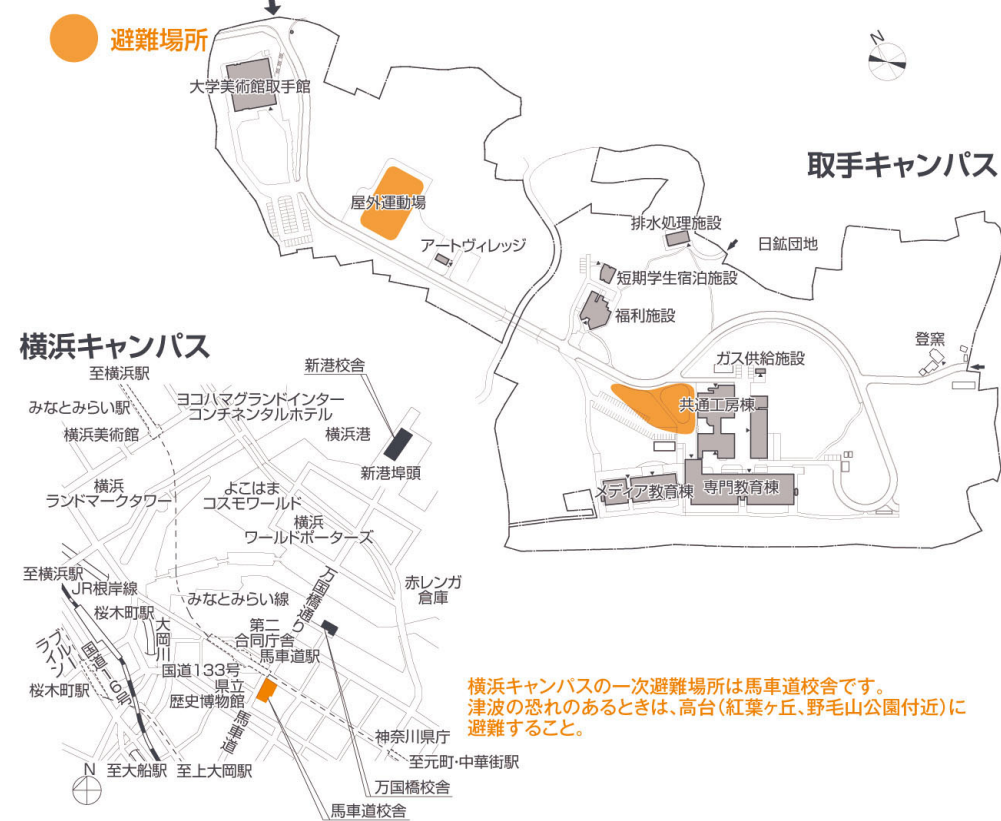
大学又は指導教員へ安否連絡

大学の帰宅指示により帰宅する

自宅に歩いて帰ることができるか

はい → 自宅へ
いいえ → 大学の指定した場所へ

取手キャンパス・横浜キャンパス避難場所



横浜キャンパスの一次避難場所は馬車道校舎です。津波の恐れのあるときは、高台(紅葉ヶ丘、野毛山公園付近)に避難すること。

本学が毎年行っている防災訓練に参加して避難場所・避難経路を確認しておいてください。

応急手当の方法
まず、自分の安全を確保する。

人が煙れたら

意識や呼吸・脈・外傷の有無などを観察する。
● 意識がない → 助けを呼び。
● 意識がある → 脈を聞き、必要な応急手当をする。

切り傷などによる出血

大部分の出血は、数分間の圧迫で止血する。
● 出血が止まらなければ、傷口をきれいな水で洗い、清潔な布を当てて上から圧迫する。
● 心臓より高い位置に保つ。
● 傷が深くて出血が止まらないときは、抜かずに固定し、病院へ。
※ 傷口が汚れている場合は、清潔な布を当て、
※ 傷口が汚れている場合は、清潔な布を当て、
※ 傷口が汚れている場合は、清潔な布を当て、

骨折

● 添え木(板・巻・タオルなど)を利用して、
● 患部を固定し、病院へ。
● 患部を固定し、病院へ。
● 患部を固定し、病院へ。

突然の災害・けが・病気に備えて

● 応急手当・心肺蘇生の講習会に参加する。
(本学でも講習会を実施しています。)
● 清潔なハンカチ・タオルを持ち歩く習慣を。
● 清潔なハンカチ・タオルを持ち歩く習慣を。

家族・友人間の安否連絡

家族・友人間での安否連絡方法です。
落ち合う場所を決めておきましょう。
ただし、以下は震度6弱程度から利用できます。

災害用伝言ダイヤル

① 伝言の録音
② 伝言の再生

インターネットによる情報登録検索

インターネット上に安否情報を登録することで、閲覧できるサービスや掲示板に掲載するサービスもあります。

災害用伝言板の利用

携帯電話各社は、大規模災害時の皆さんの安否を伝える災害用伝言板サービスを提供しています。各社の登録情報は相互に閲覧することができます。ただし、事前の登録が必要です。

● 伝言の登録...Xから「災害用伝言板」を選び「登録」に伝言を登録
● 伝言の確認...Xから「災害用伝言板」を選び「確認」から伝言を確認
携帯各社へのアクセスは、裏面を参照のこと。

大学からの連絡、大学への連絡

① 大学ホームページ (http://www.geidai.ac.jp/) 大学からのお知らせは、すべてホームページに掲載されます。
② メール配信
● 学生支援課又は教務担当から、重大メール宛に安否確認を行いますので、必ず返信してください。
● 登録番号@所属.geidai.ac.jp
所属 美術部 音楽部 映像部
sakusei-soumu@ml.geidai.ac.jp
災害時優先電話 03-3828-1155
③ Twitter (@tokyo_geidai)

緊急情報カード
所定の事項を記入して、Xアプリなどで常時携帯しましょう。

氏名	
学番番号	
緊急連絡先	
住所	
TEL	
生年月日 S/H	年 月 日
持病	
アレルギー	

帰宅できるか判断する

● 距離...歩ける距離か。
● 建物に取り残されている人を知っている場合は、教職員に直ちに連絡する。
● 基本的には自宅に戻る。
● 大学が目前のときは大学へ。
● 連絡可能な状況になったら安否連絡を行う。

自宅にいるとき

● 周囲が落ち着いてから大学又は指導教員へ安否等の連絡を行う。
● 連絡先：学生支援課総務係
gakusei-soumu@ml.geidai.ac.jp
災害時優先電話 03-3828-1155

帰宅に当たっての心構え

● 家族に安否を伝える。
● ぐちゃみに携帯を使わない。(電池が切れる)
● 適宜休憩して、体力の回復と情報の収集に努める。
● 帰宅困難者支援場所等を有効活用する。
● 帰宅が無理と感じたら、大学に引き返すことも考える。

帰宅したら大学からの情報を確認する

● ⑥ 大学との連絡などを参照し、指示に従って安否を連絡する。

帰宅判断

大地震発生時に大学にいる場合は以下のとおり行動してください。
● 大学の指示を待って、帰宅を開始するようにしましょう。
● 徒歩で帰宅する目安は、自宅からXアプリ又は10km以内であるかどうかです。
● 徒歩での帰宅が困難な場合は、公共交通機関が運行し始めるまで待ちましょう。

大学との連絡など

● 帰宅判断
● 帰宅に当たっての心構え
● 帰宅したら大学からの情報を確認する